

あたりまえの難しさ



株式会社C.A.L専務取締役
水戸黄門チーフプロデューサー

中尾 幸男 氏

教育随想



平成18年1月1日

1月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
株式会社C.A.L専務取締役 水戸黄門チーフプロデューサー 中尾 幸男氏	
この人に聞く	2
「福祉工房あいち」代表 加藤 源重氏	
羅針盤	2
保健体育科指導員 野田 豊	
ふれあい	3
広幡幼稚園 成川 飛鳥 井田 小 深津 智子	
特集	4
岡崎市・額田町合併 新「岡崎市」の教育の展望を語る	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
郷土芸能クラブ結成 (昭和57年)	
この本を	8

子供のころ、親や先生に「嘘をついてはいけない」とか「他人に迷惑をかけてはいけない」とよく注意されたものです。そんな時の返事は決まって、「同じことばかり言わないで、分かっているよッ！」だったように思います。何故、分かっているはずのことを何回も注意されたのでしょうか。

ところで、私が制作に携わっていますテレビ番組の「水戸黄門」は国民的番組とまで言われ、放送回数は実に一〇〇回を超えています。とにかく分かりやすいのが良いと言う声がある反面、いつも同じような話でマンネリだとの批判的な声もあります。ではどうしてこの番組はこんなに長く続いてきたのでしょうか。それは、人間にとって本当に大事な

こと、日本人がこれまでずっと大切にしてきた考え方や生き方、心の原点にあるものが描き続けられてきたからなのではないでしょうか。番組の一貫したテーマは勧善懲悪と人間愛です。ものの善悪のわかまえと親子愛、夫婦愛、兄弟愛等の大切さです。誰しもが共感出来るこの普遍のテーマの繰り返しこそが、長い間人々から支持されてきたのだと思います。

しかし、現実の世の中は、考えられないような悲惨な事件が相次いでいます。悪代官顔負けの政治家の汚職や、公私をわきまえない企業人の不正事件は後を絶ちません。事件の低年齢化も大変悲しい現象です。何か社会や人間関係の歪みのようなものを感じてなりません。

正直に生きるとか、他人に思いやりを持つとか、あたりまえのことが、なかなか実行出来ないのが人間の弱さかも知れません。「水戸黄門」は、今年も心温まる人々との出会いを求めて世直しの旅を続けます。印籠は日本人の良心の証であり、心の鏡だと思っています。

(なかお ゆきお)





一生挑戦

「福祉工房あいち」代表

加藤 源重 氏

講演予定がぎつしり詰まった黒板。数え切れないほどの賞状。所狭しと並べられた発明品の数々。「三河のエジソン」と呼ばれる加藤源重さんの工房を訪ねた。

「私は、五十六歳の時に機械の修理中の事故で、右手の四本の指と手のひらの大半を失いました。しかし、どうしても自分の手で箸を持つて食事をしたかった。義手メーカーに自助具の製作を依頼しましたが、すべて断られました。だれもやってくれないなら自分でやるしかない。その時、断られた悔しさがエネルギー

となって、自分で自助具を作り始めたのです。」

いざ作り始めたものの障害のある手では思うように作業が進まず、失敗の連続だったそうだ。

「指のない右手にハンマーを縛りつけて作業しました。痛いのを我慢し、気づくと血がにじんでいたこともありました。」

と、振り返られる。

「作業が思うようにいかず、いららして工房に足が向かないこともありましたが。ある時、なぜいららするのかわかると、あせりすぎている自分に気づきました。先の先まで考えるからいららするのであって、背伸びせず今日一日頑張ろうと思うようにしたら楽になりました。」

明るい口調で話されたが、そこには計り知れない苦労があったことがうかがわれた。



こうして自助具を完成させた話がマスコミに取り上げられ、自助具を求める人々が増えてきたことから『福祉工房あいち』を設立することになった。今では全国から障害のある方が依頼に来るそうである。

「私の工房では、自助具はその人の障害に合わせて作ります。依頼者とコミュニケーションを取り、その人の要望に最大限こたえるために、一つ一つ手作業で調整を繰り返します。自助具に関しては依頼を断ったことは一度もありません。やる気さえあれば方法はいくらでもあります。完成して喜ばれたときの笑顔を思い浮かべながらやると、やる気もわくし、つらさも吹き飛びます。できなかったことができるということがどれだけうれしいことか。私も不自由さを味わったから分かるんです。」

話す言葉に力を感じた。

「不具合はいくらでも出てきます。しかしそれを失敗だとはとらえず、おさらいだと考え、より良いものを目指して改良を重ねていきます。だから終わりがいい。一生挑戦です。」

語る姿から人間としての強さと前向きに生きることの大切さを教えていただいた。

氏名 加藤 源重
生年月日 昭和十年九月二十五日
住 所 牧平町コラゲ十三一八十九



厳しさと気配りのある 体育の授業

保健体育科指導員 野田 豊

「話し声が聞こえる。やり直し。」

教師のこの言葉で一気に緊張感が高まり、先程とは比較にならない大きな声での準備運動が始まる。顔つきとともに、一つ一つの動きが引き締まった。A小学校四年生、ハードル走の授業である。

最近心ほぐすねらいから、体ほぐしの運動を取り入れた実践を多く見る。本授業でも、一人組でのじゃんけん遊びが取り入れられた。勝敗別に一斉に目標に向かって走り出す。二回目はケンケン走り、三回目はフーフーフ跳びと、主運動につながる運動がテンポよく行われる。体ほぐしの運動が終わったときには、全員が頬が紅潮し笑顔になっていた。

本時の課題は、「ハードルを置く位置を工夫して、リズムよく跳べるようにしよう」である。次に、教師が

だるまさんがころんだ

広幡幼稚園 成川 飛鳥

運動会への参加や給食当番など、皆と一緒に活動に不安を示すことの多いA子は、友達が『だるまさんがころんだ』をしていても参加せず、見ていることが多かった。

ある日、私が子供たちとフラフープで遊んでいると、A子がやってきて、控え目に回し始めた。「A子ちゃん、いっぱい回せるんだね」と声をかけると、にっこりとほほえんだ。そして、友達が回すのを見て、座ったりジャンプしたりと、次々に技を披露した。周りにいた友達からも「A子ちゃんすごいね」と言われると、得意気な表情になった。運動会当日、進んでフラフープの列に並んだA子は、家族の方を向いて何度も手を振り、とびきりの笑顔で自信あ



ふれる演技を見せてくれた。

運動会後のある日、子供たちが『だるまさんがころんだ』で遊んでいると、A子が近づいてきた。私が、「A子ちゃんも一緒にやる」と問いかけると、初めは戸惑っていたが、もう一度聞くと、「うん」と答えた。遊んでいるうちに、A子が鬼になった。できるかなと思いつながら見守っている、恥ずかしそうに「だるまさんがころんだ」とA子の声が聞こえてきた。小さな声だったが、振り向いた笑顔を見た時、A子の成長を感じ胸が熱くなった。



理由は分かったよ

井田小 深津 智子

A男は体を動かすことが大好きな明るい子である。しかし、落ち着きがなく、気になることがあると我慢できず、友達に迷惑をかけてしまうことが多い。

ある日、クラスでドッジボールをしていると、A男が相手の子のボー



ルを奪い、突き飛ばしていた。また乱暴が始まったかと思いき、A男を注意していると、「今のは線から出たから、A男のボールでいいんだよ」とかばう子がいた。私は、A男を一方的に責めていた自分にはつとした。「理由があつたんだね」と言うと、A男はこくりとうなずき、突き飛ばしてしまった友達に素直に謝ることができた。

それから、私は努めてA男と遊ぶようにした。遊んでいるときのA男の表情はきらきら輝き、愛嬌あいきょうのある言動が友達から好かれていたことが分かってきた。相変わらず乱暴な行動もあるが、A男の言い分をまず聞き、「理由は分かったよ」と一声かけることで、落ち着いて話ができるようになってきた。

毎朝、私を迎えに職員室の入り口に來ているA男の笑顔を見るたびに、今日はどんな一面が発見できるか楽しみになる。

用意していたのは、カスタネットである。一、二、三のリズムで、駆け足をしながらその場ジャンプを繰り返す。その後、六つのグルーブに分かれて練習が始まる。「どう、何歩だった」「だめ、この間隔だとリズムよく跳べない」と、話しながらハードルの位置を何度も修正する。「Bさん、スピードに乗ってるね」「こーうやって勢いよく前に足を出せば、スピードがつくよ」と、活発な意見交換がなされる。また、ハードル並べ、タイムの計測、記録といった役割分担が的確に行われ、効率よく練習が進む。その間、教師は、グルーブ間を走り回り、激励の声をかけながら、一人一人を観察・評価する。練習が終わり、集合したときには、児童も教師も汗びっしょりであった。

最後に反省会の中で、見学していた児童に、今日、最も頑張っていた子を発表させた。あらかじめよく見ているように指示するなど、見学者への配慮も忘れない。

本時は、教師が周到な準備をし、児童に対しても機敏な動きを要求しており、適度な緊張感のある授業であった。また、教師の元気の良さと児童一人一人に対する細やかな気配りが、温かい学習の雰囲気を作り出していた。



藤井教育長を訪ねて

平成十八年一月一日、岡崎市と額田町が合併する。新「岡崎市」誕生を控えて、藤井孝弘教育長を訪ねた。聞き手は、早川正春編集委員長である。

岡崎市・額田町合併 新「岡崎市」の教育の展望を語る

I 新「岡崎市」となり、これからの教育で何が重要でしょうか

平成十八年一月一日、岡崎市と額田町が合併をして、県下三番目の行政面積となる新岡崎市が誕生します。この合併を機に、岡崎市では、額田町の自然のよさを取り入れた自然保護環境保全育成事業「水とみどりの森の駅」の整備計画を発表しました。新市の子供たちの夢を育む「森の駅」「星の降る里」など、「人、水、緑が輝く活気に満ちた美しい都市」にふさわしい環境整備を一層推進していきます。

さて、今次の教育改革の目的は、「信頼される学校づくり」と「生きる力の育成」であり、その中心は、「開かれた学校、特色ある学校づくり」と、「確かな学力、豊かな心」の育成であります。

本市としては、これまで積極的に改革を進め、学校危機管理マニュアルの策定、滞在・派遣・海外研修創設、市独自予算による教員補助者の設置、ウツデバラ市との姉妹都市交流再開、評価規準例集の完成、岡崎スタンダードの作成、目標管理サイクルR・P・D・C・Aの導入等、過去五年間で五十以上の教育改革を果敢に推進してきました。

とりわけ、平成十五年度より、中核市となり、「岡崎市の二十一世紀教育ビジョン推進計画」を策定しました。これは、「心豊かにたくましく生きる力を育む」を目標に、学校・家庭・地域の絆を深め、子育てのネットワーク化を図り、子供の「主体性の育成」と「個性尊重」の教育の進展を目指すものです。

今後、こうした二十一世紀教育ビジョンを基盤に、

次の施策を重点に取り組み、新岡崎の教育を一層充実してまいりたいと思えます。

II これからの学校（園）に必要な施策は何ですか

(1) 信頼される学校（園）づくりのための視点

① 目標管理サイクルR・P・D・C・Aの導入
目指す教育の目標をこれまで以上に明確に示し、それに即して子供たちに必要な学力・体力・道徳性をしっかりと養い、検証し、改善することで教育の質を保証しなければなりません。そのためには、目標管理サイクル「RESEARCH（実態把握）→PLAN（目標設定）→DO（実行）→CHECK（評価）→ACTION（改善）」を導入した学校経営・学級経営・授業等の改革が重要です。

② 開かれた学校（園）づくりの推進

これからの学校（園）は、家庭や地域の意向を十分に反映するとともに、学校情報を積極的に公開して説明責任を果たし、地域・家庭と連携を密にしていこうと求められます。

〈開かれた学校〉授業参観週間・学校便り・ホームページ等の充実、教育マイスター・スクールサポートボランティア（SSV）等の積極的な活用をしていく必要があります。さらに、OC委員会や中学校区児童生徒健全育成協議会等の充実を図り、「情報連携」「行動連携」を推進し、学区全体で子供を育てていく必要があります。

〈学校評価〉教育活動診断票を用いて、保護者・子供を対象とした外部評価、教職員を対象とした内部評価等の学校評価を実施して、各学校の教育活動に生かすことが重要です。その中で、大切なことは、全教職員でその結果を分析し、積極的に分析結果及び改善策を家庭や地域に公表することです。

〈子育てのネットワーク化〉本市では、教育委員会の各種事業のローガンを「深めよう 学校 家庭 地

域の絆」と定め、事業実施効果をより高めることを期待しています。特に、家庭教育力を培うために、PTA連絡協議会で「我が家の憲法」づくりを提唱したり、社会教育審議会やOC委員会を通して「あいさつ運動」を推進したりしており、各校での取組を期待します。

③ 特色ある学校(園)づくりの推進

特色ある学校(園)づくりは、各学校の自主的・自律的な創意ある取組によって、新しい時代にふさわしい学校の実現を目指すことです。そのためには、子供の実態・地域や家庭の願い・学校の現状・地域の状況等を把握し、これらを視点に、各校独自の教育活動を展開することが、特色ある学校の具現化につながります。さらに、市独自の「特色ある学校づくり推進事業」にも積極的に応募し、学校の活性化に努めることが大切です。

④ 一人一人を大切にされた教育の推進

学校(園)は、子供一人一人が安心して学べる環境づくりを充実する必要があります。そのために、県内市町村で初の「特別支援教育連携協議会」の設置や「介助ボランティア」の公募をはじめとして、いじめ・不登校対策、緊急時の対策や登下校の安全対策、個人情報管理対策等、一人一人の状況を把握し、細やかな対応を図ることに努めています。そこでは、関係諸機関との連携を一層密にすることが重要です。

(2) 確かな学力と豊かな心を育成するための視点

① 岡崎スタンダードの作成

学力向上策の一つとして、岡崎市の学力調査結果等の課題に対応するために、「岡崎スタンダード」の作成に取り組んでいます。これは、各学校が共通に取り組む「学習指導要領の内容で時間を十分にかけ取り組む『重点指導項目』」及び、「学習指導要領を超えて学習する『発展指導項目』」についての岡崎市の学習内容の基準を示したものです。即ち、学習指導方針の根幹であり、学習指導要領の岡崎版とも言えるものです。

② 授業改善の推進

授業で勝負できる「教えるプロ」の育成が求められ

ています。そこで、確かな学力(学ぼうとする力・学ぶ力・学んだ力)を身につけさせるためには、まず子供が自ら学ぶ意欲を高め、積極的に学習活動に取り組む姿勢を培うことが重要です。そのために学校は、指導目標の明確化、学習内容の精選、教育課程の吟味をするとともに、実践的な教材研究や授業研究を推進していくことが必要です。

③ 読書活動、道徳教育、体験活動の推進

豊かな心を育てる教育の一環として、全校で読書の時間を設定したり、道徳の時間の確保はもとより、体験活動を全教育活動で積極的に取り入れたりすることを重視しています。そして、子供たちにもみずみずしい感性や情操、善悪をわきまえ、人を思いやる心、社会に役立つ人を育てていくことが重要です。

Ⅲ これからの時代に必要な教師の資質と
はどんなことでしょうか

「教育は人なり」と言われています。つまり、教師は、学校の最大の経営資産であり、子供にとって最重要の教育環境であるだけに、教師の「人間性」「専門性」「指導性」の三つのバランスのとれた力量が必要とされています。

今日、様々な教育改革が実施されていますが、その基本は、教職員の意識改革です。教職員の意識改革とは、「子供観」「指導観」「評価観」を変えることであり、自ら学び、自ら考える力を育成し、個に応じた指導の一層の充実を図ることです。そのためには何より教師の「資質の向上」が必要です。本市としては、その具体的な手立ての一つとして、教員評価システムの導入を計画しています。

昨今、子供が言うことを聞かないという言葉が耳にします。それは、子供が変わっただけではなく、教師に「教育力」が欠けている場合もあります。「教育力」について、家本芳郎氏は、『教育力をみがく』の著書の中で、次のように述べています。

「教育力」とは、「指導の力」「人格の力」「管理の力」の総合力であり、これらは生まれつき備わったものではない。教育という仕事をしながら学び、意識して身につけ、磨き上げていく思想であり、技術であります。

○「指導の力」とは、
子供が進んでやるうという気持ちにさせる力です。

○「人格の力」とは、
子供に好かれ、信頼され、尊敬される力です。

○「管理の力」とは、
子供の生命を守る強い力です。

折しも中教審から、「新しい時代の義務教育を創造する」の答申が出され、「学校の教育力、すなわち『学校力』を強化し、『教師力』を強化し、それを通じて子供たちの『人間力』を豊かに育てることが改革の目標である」と述べられています。

岡崎の教育は、教職員一人一人にかかっています。子供たちの人間力を培う立場から、教育力の向上を図り、より使命感に燃えるとともに、子供たちに深い愛情をもって指導できる教職員を目指し、新市にふさわしい新たな気持ちで、子供が

学びたい学校

保護者や地域の方が
通わせたい学校

教職員が

勤めたい学校

づくりに邁進まいしんされることを期待
します。



▲ 教育長に取材する早川委員長(右)と増澤、杉山編集委員

お知らせ

● 教育最新情報

○へき地教育の概要

県内には、三河山間部や離島にへき地校が七十校ほどある。へき地校は、へき地ならではの地域の特性を生かすアイデアを生み出し、心豊かでありたい人間の育成を目指す努力をしている。

額田地区では、「へき地小規模校集合学習」と「へき地発児童生徒ふるさと交流活動」の二つの県補助事業を行っている。

○複式学級

二学年合わせて、小一・二年は八名以上、小三・四と小五・六年はそれぞれ十五人以上で単式学級になる。複式学級を有する学校は、鳥川小、大雨河小、宮崎小、千万町小である。上下の学年の人数により隔年で複式学級となる場合は



「隔年複式解消」措置がとられている。(夏山小、宮崎小、下山小)

○集合学習

昭和五十二年度より、鳥川小、大雨河小、千万町小の三校は、低・中・高学年ごとに各学校に集まり、「額田集合学習」を行っている。

「ふるさとに根ざし、ふれ合い学び合う」をモットーに、「音楽、体育、特別活動、生活科、総合的な学習の時間、



▲ 高学年バスケットボール



▲ 茅葺き屋敷で五平餅作り

保健学習」を行っている。

具体的には、まとまった人数が必要な「音楽、体育」を基本に、年三回の低・中・高学年部の学習と、一回の現場学習(社会見学・体験)の計四回実施している。

児童の移動には、毎回マイククロパスを二台利用している。



▲ 高学年器楽合奏

● 少年の自然の家だより

○すぶちネイチャークラブ

十月八日(土)、本年度五回目のネイチャークラブを開催した。午前中は、あいにくの雨模様の中、「ほたる狩りオリエンテーリング」を行った。シルバーコンパスを使うことが初めてという子供たちは戸惑いながら、山の中に入り

一生懸命ポイントを探した。方向や距離が合わず、何度もやり直しをしながら最後まであきらめずにゴールした。午後からは、「栗拾い」と木の实や小枝を使ったクラフトを行った。どの子も拾ってきた小枝やどんぐりで工夫しながら、作品を完成させ、お土産として持ち帰った。

参加した子供たちは、雨の中、秋の自然を思いっきり満喫した。

○新そばを食べる会

十月十五日(土)、安杖康則さん、中山綱起さんの二人を講師に迎え、「新そばを食べる会」を実施した。

当日は、抽選で選ばれた家族十組三十八名が参加した。

講師の先生の手本を見た後、各家族で、そば打ちに挑戦した。子供たちよりお父さんやお母さんの方が張り切つて、そばを打ち、ゆで上げた。

太いきしめんのようなそばもあったが、自分たちで作ったそばの味は格別であった。



▲ そば打ちに挑戦する家族

参加者には、所内の地図が配られ、「ツリーラリー」を楽しんだ。家族で相談し、チェックポイントでは一枚一枚の葉を見比べながら山の中を散策した。秋の紅葉を楽しみ、色づく季節を肌で感じ取った。

十一月十九日(土)、やや風が強く寒い日にもかかわらず、市内十二家族四十三名が「紅葉狩りオリエンテーリング」に参加した。

● 第三十三回教育文化賞授賞式



▲ 教育文化賞授賞式 (11月19日：せきれいホール)

「教育文化賞」は、岡崎市の教育文化振興に寄与する個人または団体の、優れた業績や、現に続けている研究・活動に対し、顕彰・助成を行う目的で実施している。今年度推薦された個人・団体は総計二十七点で、いずれも永年の地道な努力の積み重ねによる成果が顕著であった。式典終了後、過去の受賞団体である細川小学校郷土芸能クラブ、岡崎市PTAコーラス連盟、光ヶ丘女子高等学校ダンス部による記念公演が行われた。

(個人の部)

◆伊豫田照和 氏

昭和二十五年以来、主に岡崎の仏像・社寺の研究に着手する。その後、本市の貴重な文化財の調査・保護活動を市民に普及させるなど、長きにわたり活躍している。

◆浅井 浚一 氏

昭和四十三年より三十年間、俳句と絵を色紙に表現する会を主宰。おかざき世界子ども美術博物館開館に携わり、現在も多くの市民を対象に絵画教室指導者として活躍している。

◆成田 久高 氏

昭和五十二年に交通指導員の委嘱を受けて以来、交通安全指導に向けた多彩な取組と啓発活動の推進に尽力している。交通指導員の後進者の育成にも精力的に努めている。

(団体の部)

◆岡崎ハナシヨウブ愛好会

昭和五十九年に発足し、東公園の花菖蒲の品種改良と栽培法の指導、優良種苗の寄贈を推進する。菖蒲まつりの期間中、茶会や防災防犯パトロール等も積極的に実施している。

◆岡崎市立竜海中学校

昭和五十四年に文部省から「心身障害児理解推進校」の委嘱を受けて以来、生徒たちの豊かな情操を育むために、岡崎盲学校との交流活動を継続的・計画的に実施している。



▲ 柴田市長より賞状を受ける受賞者

◎記念公演

◀ 細川小学校郷土芸能クラブ (第二十二回受賞)



◀ 岡崎市PTAコーラス連盟 (第二十七回受賞)

● 表彰



▲ 光ヶ丘女子高等学校ダンス部 (第32回受賞)

◆第三十九回全国中学校文芸作品

歌曲創作コンクール文芸の部
特選(文部科学大臣賞)
東海中三年 加藤 香衣

◆第五回毎日パソコンサカコンクール

審査委員会賞 岩津中三年 河西由香

◆第二十回「We love トンボ」

絵画コンクール
学校賞 環境大臣賞 矢作南小学校

◆第十九回毎日カップ「中学校

体力づくり」コンテスト
優良賞 甲山中学校

◆スパーファイティング空手道

全国大会
中一の部 優勝 竜海中 本多 勝
中二の部 優勝 竜海中 福安紋弥

◆第二回WFP生徒作文コンクール

佳作 竜海中三年 鬼頭沙友子

◆第五十四回愛知県中学校駅伝大会

男子
二位 東海中・三位 矢作中・四位 葵中
七位 六ツ美中・八位 南中

女子
二位 南中・四位 城北中・五位 矢作中
六位 六ツ美中

◆県中学校新人軟式野球大会

第三位 六ツ美北中学校

◆愛知県学校給食開発物質「ヨールト」のシルデザイン

最優秀賞 緑丘小六年 鈴木里奈

◆全国少年消防クラブ運営指導協議会県支部表彰

● 防火作品展
県支部長賞 矢作中二年 神谷とつき
● 優良クラブ 六名学区少年消防クラブ

◆第二十四回県中学生バレーボール

新人大会男子の部
優勝 矢作中二年 矢作北中・三位 東海中

◆県中学校ソフトテニス新人大会

男子の部
二位 矢作北中・三位 六ツ美北中

◆第四十五回西三河中学校英語

スピーチコンテスト入賞者
葵 中二年 佐藤亜沙子
竜海中 三年 倉世古千晴
葵 中三年 成瀬 勇麻
新香山中三年 大井 笑理

◆明るい社会実践体験文

市長賞 上地小六年 加藤壮紀
明るい社会づくり岡崎地区推進協議会賞
上地小六年 上村捺摘

・カ
ツ
ト
東
海
中
土
井
誠
司

郷土芸能クラブ結成

(昭和57年)

写真提供：細川小学校

昭和五十七年、学区に伝わる御殿万歳ごてんまんざいを学ぶことで、地域学習の一助となると考え、郷土芸能クラブが結成された。結成時の写真を見ると、鼓や烏帽子も手作りで、衣装もお祭りの法被えびきである。以後、伝統の笑いを運ぶ「ちびっ子万歳師」たちは、様々な祝いの場で万歳を披露している。

先人が創造し、地域の人々に受け継がれてきた郷土芸能の保存・継承に対する意識が高まり、平成四年に「岡崎市子ども伝統芸能祭」が始まった。本年度も市内八校の雅楽や和太鼓が披露された。第一回から出演している細川小のクラブは、地域の伝統芸能に学び、地域とのつながりを深めていく先駆的な役割を果たした。



この本を

- *教育力をみがく 家本 芳郎
子どもの未来社 ¥820
- *バカなおとなにならない脳 養老 孟司
理論社 ¥1200
- *人生を変える笑顔の作り方 野坂 礼子
P H P 研究所 ¥1350
- *“本気”の集団をつくるチーム・コーチングの技術 徳岡晃一郎
ダイヤモンド社 ¥1600
- *タオ 加島 祥造
筑摩書房 ¥1700

*幸せになる成功知能H Q 澤口 俊之
講談社 ¥1600

脳の構造や脳が働く仕組みから、人間の心の有り様や人間性といったものを紐解こうとしているのが興味深い。

「キレル子供は増えているのか」「よい子が思春期になって挫折するわけ」など、私たちが日ごろ疑問に思っていることを、脳の構造や発達と関連づけて説明しているので納得できる。

H Q (人間性知性) は年をとっても伸ばすことができると言い、私たち大人にも生きる勇気や励みを与えてくれる。

岡崎を舞台に、四月からNHKの朝の連続テレビ小説「純情きらり」がスタートする。市ではサポーターズクラブが発足し、市内ロケも行われた。この機会に岡崎の町並みや伝統産業のよさがさらに全国に広まり、訪れる人が増えるであろう。今から放映が楽しみである。

シオ スア

新年を迎え、家々は玄関に、しめ縄や門松を飾り、新たな年の門出を祝う。ときには、ほんの少しの若松が冬の寒さの中、玄関の隅にはあるが凛としていて。これもまた清々しさと奥ゆかしさを感じさせる。今年もまた幸多き年となりますように。

ありつたけの力を出し、夕暮れの運動場で、厳しい練習に励む駅伝部員たち。自分のため、仲間のためにという気持ちを一歩のたすきに込め、ひたすら練習を続けてきた。伝統の岡崎市民駅伝がもうすぐ行われる。どのチームも悔いのない走りをし、最後までたすきをつないでもらいたい。

炭焼き窯や水車小屋、つるべ井戸などがある小学校。そこでは、子供たちの身近な「人・もの・こと」を教材化し、子供たちに思い切り自然体験や生活体験をさせている。豊かな自然を活用した、夢のある活動を行ってきた学校を仲間として迎え、新岡崎市の教育がスタートした。